

5 考察

(1) 教科(国語、算数・数学、理科)に関する調査結果について

本市の市立小・中学校の平均正答率、平均 IRT スコア(中学校 理科のみ)等を見ると、全ての教科において、全国公立学校の平均値と大きな差は見られませんでした。

【参照】「文部科学省 国立教育政策研究所「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書」」

○…比較的できている点 ●…課題のある点	
成果と課題	充実・改善のヒント
知識及び技能 ● 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに引き続き課題があります。	漢字の読み方や意味を考え、文や文章の中での正しい使い方を身に付ける活動を取り入れることが考えられます。特に今後は、ICT端末を使って文章を書く機会も増えることが予想されます。そのため、同音異義語から文章に合う漢字を選ぶ力を付けていくことも大切であると考えられます。
小学校 国語	
思考力、判断力、表現力等 ○ 図と言葉を合わせて示すことで、自分の考えが伝わりやすくなることを捉えることはできていると考えられます。 ● 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題があります。	複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、それぞれの資料がどのような関係にあるのかを考えながら読むことが重要であると考えられます。その際、各資料にある語句や情報を丸や四角で囲んだり、線などでつないだりするなどして、どの部分と結び付くのか視覚的に明らかにしながら読む指導を行うことが考えられます。

○…比較的できている点 ●…課題のある点	
成果と課題	充実・改善のヒント
知識及び技能 ● 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することに課題があると考えられます。	作図の学習の際、図形を作図することができるようになるだけでなく、その手順や方法と図形の性質を関連付けて、図形の性質の理解を深めることができるようにすることが重要であると考えられます。また、コンパスは単に円をかくだけでなく、等しい長さを測り取ったり移したりすることができる道具であることを理解できるようにすることも大切であると言えます。
小学校 算数	
思考力、判断力、表現力等 ○ 伴って変わる二つの数量に着目し、必用な数量を見いだすことはできていると考えられます。 ● 分数の加法について、共通する単位分数※を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを記述することに課題があると考えられます。 ※ 単位分数：もとにする大きさの分数	分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法を使って計算することができるようにすることが大切であると考えられます。例えば、加数と被加数の単位分数に着目して、既習の整数の加法を使って計算できるのかを考察する活動が考えられます。

		成果と課題	充実・改善のヒント
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	○ 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることが知識として身に付いていると考えられます。 ● 電気を通す物と磁石に引き付けられる物に関する知識を身に付けることに課題があると考えられます。	「磁石の性質」と「電気の通り道」では、鉄、アルミニウム、ガラス、木など、同じ対象物を用いて学習することが多くあります。そこで、習得した知識を活用しながら実験に取り組んだり、得られた結果を振り返りながら、物質の性質に着目して、整理したりする学習活動を通して、物質の性質に関する理解を深めることが大切であると言えます。
		小学校 理科	
		● 水のしみ込み方の違いについて【結果】を基に考察し、【問題に対するまとめ】の理由を適切に表現することに課題があると考えられます。	児童によっては、自分の予想に沿って都合よく結果を解釈したり、結果を基にしながら考えを表現できなかったりすることもあります。そのため、全体の結果を基に、より妥当な考えが作りだせるよう、1人1台端末を活用し、結果を即時的に共有したり、表からグラフに整理したりして、結果を踏まえながら指導することが考えられます。

		成果と課題	充実・改善のヒント
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	中学校 国語	
		○…比較的できている点 ●…課題のある点	
		○ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることはできていると考えられます。 ● 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては引き続き課題があると考えられます。 ● 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることに課題があると考えられます。	・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められます。文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要であると考えられます。 ・書いた文章を推敲する際には、伝えようとしてすることが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることができるように指導することが大切であると考えられます。

○…比較的できている点 ●…課題のある点

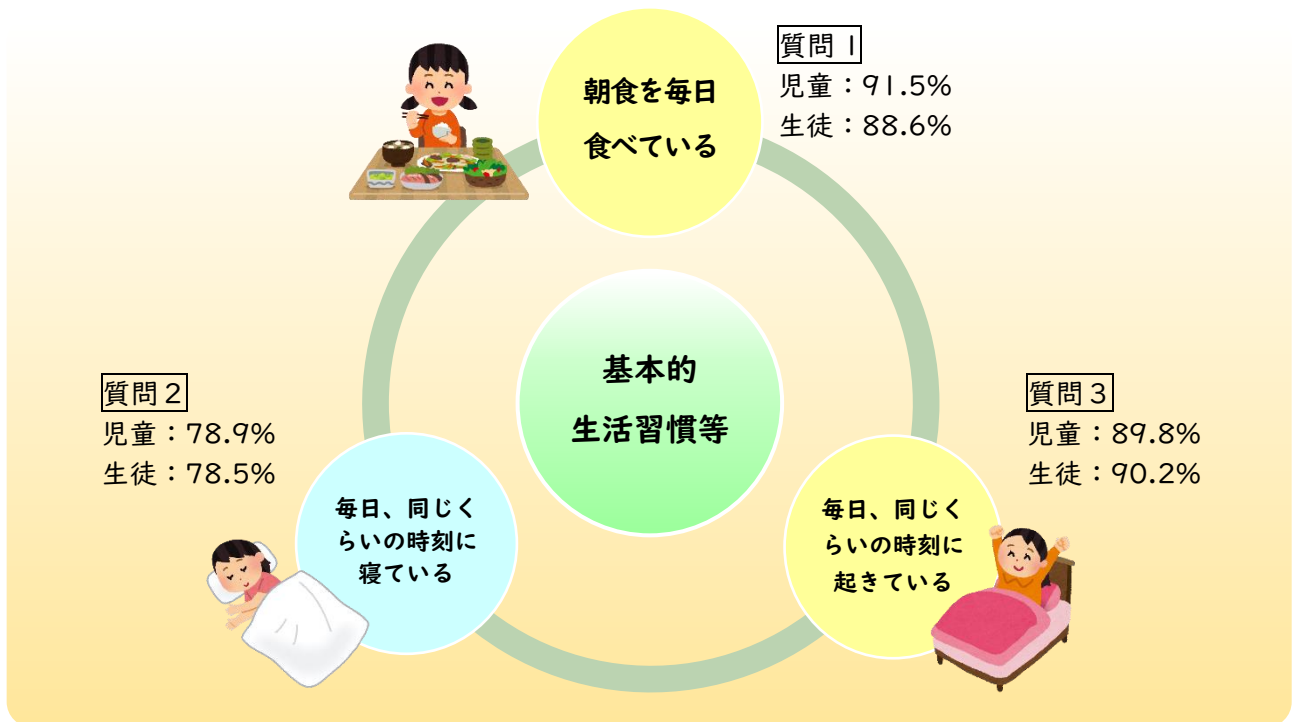
知識及び技能	成果と課題	充実・改善のヒント
	○ 必ず起こる事柄の確率について理解できていると考えられます。 ● 相対度数の意味の理解については、引き続き課題があると考えられます。	ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解し、用語を適切に用いることができるように指導することが大切であると考えられます。
思考力、判断力、表現力等		
中学校 数学		
● 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題があると考えられます。		
問題解決の見通しを立てる場面において自分の考えた解決の方法（例えば、表、式、グラフをどのように用いればよいか）を表現したり、問題解決を振り返る場面においてどのような方法で解決したのかをまとめたりすることが大切です。その際、表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていく活動を取り入れることが考えられます。		

○…比較的できている点 ●…課題のある点

知識及び技能	成果と課題	充実・改善のヒント
	○ 収集する資料や情報の信頼性を確認する方法についての知識及び技能を身に付けていると考えられます。 ● 元素を記号で書き表すことに課題があると考えられます。	指導に当たっては、例えばスポーツ飲料や洗剤、入浴剤等の成分表示の中に元素記号が記載されていることに気付かせるなど、身の回りの生活の中で元素記号が使われていることを実感させる学習場面を設定することが考えられます。その際、物質やその変化を記述したり理解したりするために元素記号を用いることは有効であることに気付くよう促すことも大切であると言えます。
思考力、判断力、表現力等		
中学校 理科		
○ 探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現することができていると考えられます。 ● ボーリング調査の結果と関連付けて、地層の広がりを検討して表現することに課題があると考えられます。		
ボーリング調査の結果が、地盤の安全性の評価やハザードマップの作成に活用されていることに触れ、大地の変化に関する学習と日々の安全な生活とのつながりに気付くようにすることが大切であると言えます。指導に当たっては、離れた地点の幾つかの地層を比較したり、地層モデルを活用したりするなどの体験活動を通して、地層の広がり方や傾きを空間的な視点で捉える場面を設定することが考えられます。		

(2) 児童・生徒質問調査の結果について

ア 基本的生活習慣等について

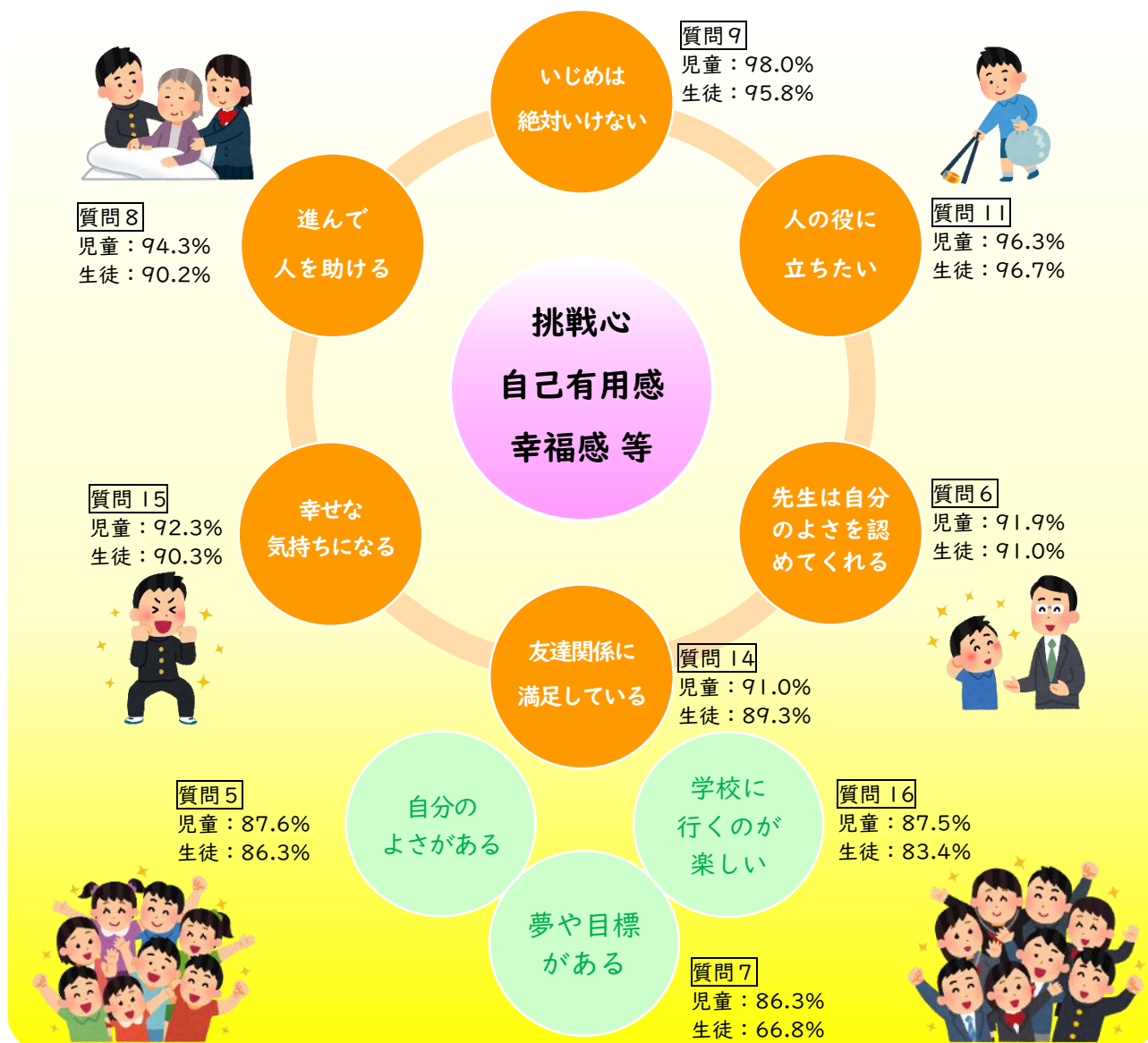


本市の児童・生徒の強み 児童・生徒質問調査の質問1及び質問3について、約9割の児童・生徒が肯定的な回答をしています。このことから、本市では、多くの児童・生徒が、家庭の支えを得ながら、毎日、ほぼ決まった時刻に起き、朝食を食べるという規則正しい生活を送ることができていると考えられます。これは、本市の児童・生徒の強みであると言えます。

一方で、質問2について肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、昨年度に引き続き全国（公立）の回答率よりも低い値となっています。

児童・生徒が生涯にわたり健康で活力ある生活を送ることができる力を身に付けるためには、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることや、自らの健康状態を把握し、望ましい基本的な生活習慣を定着させることが大切であると考えられます。そして、この実現には、家庭の支えが重要になると考えられます。

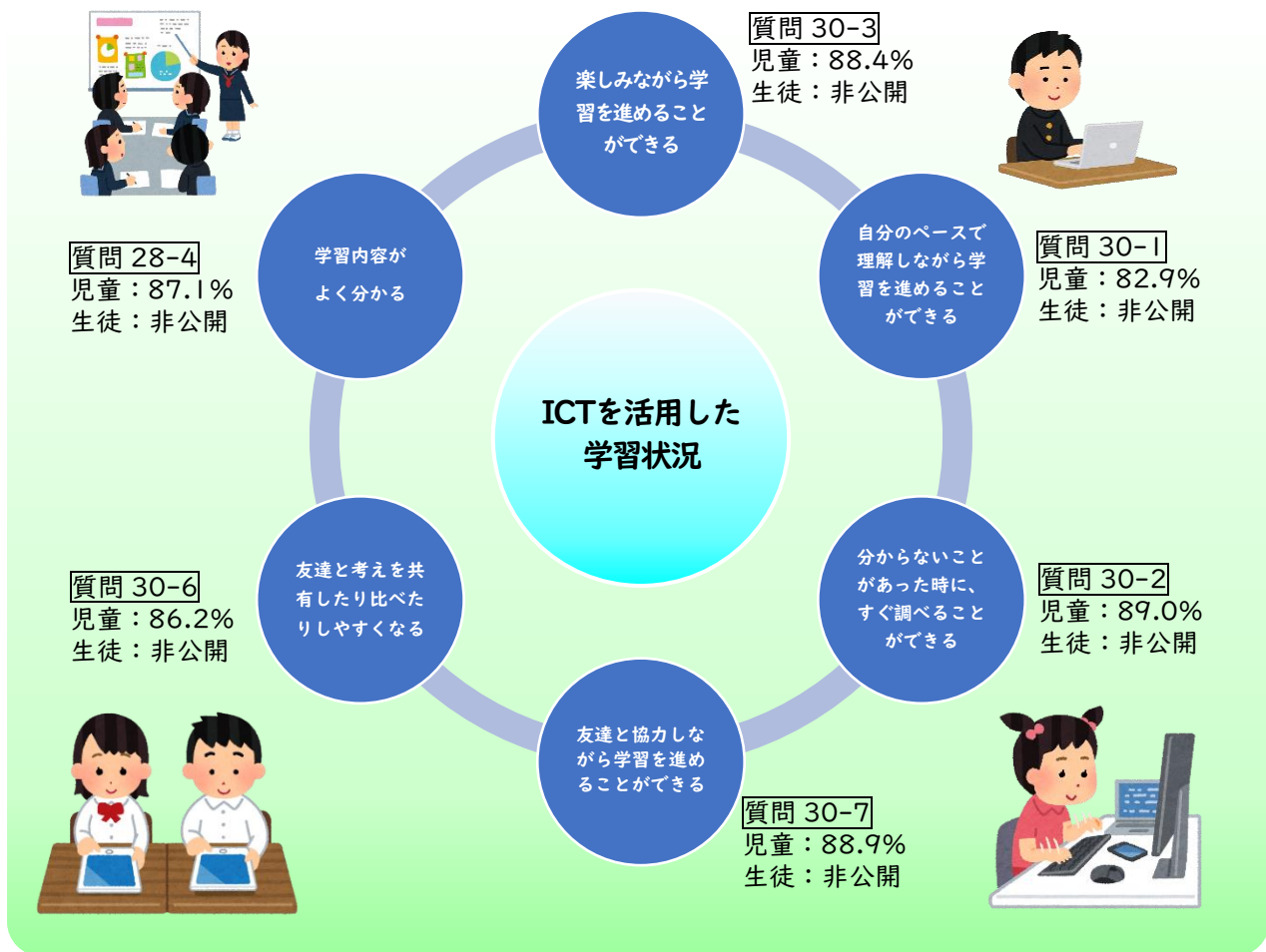
イ 挑戦心、自己有用感、幸福感等について



本市の児童・生徒の強み 上記の挑戦心や自己有用感、幸福感等に関連する児童・生徒質問調査すべてについて、肯定的な回答をした児童・生徒の割合が、昨年度に比べて増えています。このことから、本市では、挑戦心や自己有用感、幸福感等が育まれるような学級・学校環境の中で学校生活を送る児童・生徒が多いと考えられます。また、自他を大切に、互いに認め合い、支え合う人間関係づくりが進んでいると考えられます。これは、本市の児童・生徒の強みであると言えます。

今後も、人間尊重の精神を基盤として、全ての教育活動を通して、児童・生徒の発達の段階に応じた人権教育の充実を図り、あらゆる立場の人がお互いにかげがえのない人として尊重し合い、多様性を認め合える児童・生徒の育成が求められると言えます。

ウ ICTを活用した学習状況について



【ICT 機器の積極的な活用】

本市の児童・生徒の強み ICT 機器の活用回数（週3回以上に回答）についての児童・生徒質問調査（質問 28）では、小学校（5年生までに受けた授業）及び中学校（1、2年生までに受けた授業）ともに全国平均を上回っており、日々の授業の中で児童・生徒が ICT 機器を頻繁に活用している様子がうかがえます。小学校では、昨年度調査に比べて 11.7 ポイント増加、中学校では 13.0 ポイント増加しています。これは、本市の強みであると言えます。

【ICT を活用する自信】

（単位：%）

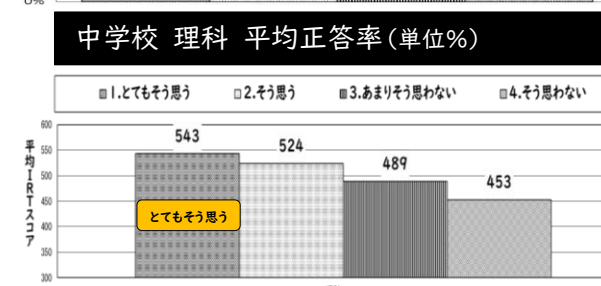
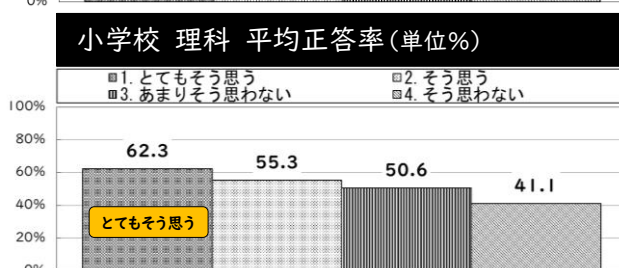
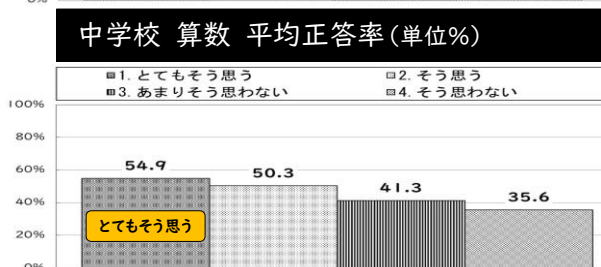
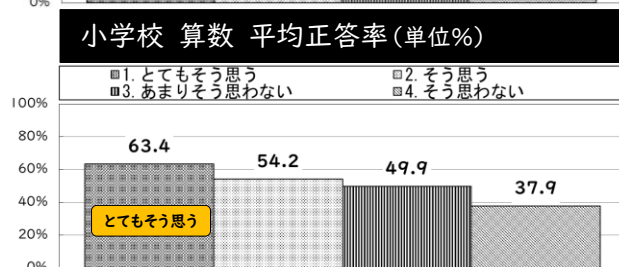
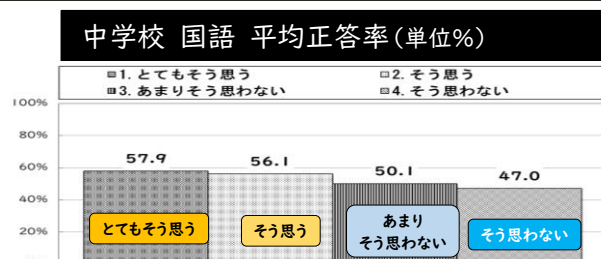
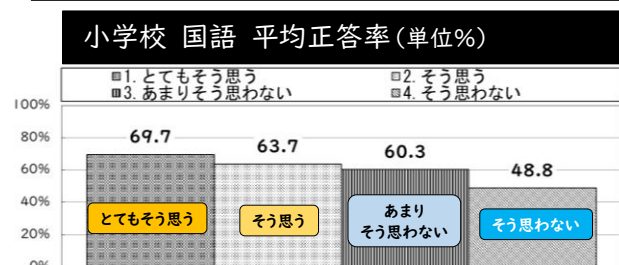
児童・生徒質問調査 質問	厚木市立 小学校	全国（公立） 小学校	厚木市立 中学校	全国（公立） 中学校
(29-1) あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。	83.2	81.8	86.7	83.6
(29-2) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか。	91.2	89.8	92.5	91.5
(29-3) あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。	71.5	69.3	64.2	63.3
(29-4) あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか。	81.6	76.7	81.6	76.6

本市の児童・生徒の強み 前記の児童・生徒質問調査の結果（肯定的な回答をした児童・生徒の割合、単位は％）から、8割以上の児童・生徒が、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、文章を作成したり、情報を収集したり、学校においてプレゼンテーション（発表のスライド）を作成したりすることに自信があると回答していることがわかります。このことから、児童・生徒が、いつでも、どこでも、必用な時に使える“道具”としてICT機器を活用することができていると考えられます。

一方、質問29-3について肯定的に回答した児童・生徒の割合は、他の質問の結果に比べて低い値となっています。図、表、グラフ、思考ツールなどを使う目的や必要性を明らかにし、目的に応じた情報の整理の仕方等を身に付けさせる指導が考えられます。

〔参考〕令和7年度全国学力・学習状況調査 クロス集計〔児童・生徒質問－教科〕

質問29-3 あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか。



上記のクロス集計分析結果から、PC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことについて自信がある（肯定的な回答をしている）児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高くなっていることがわかります。

なお、クロス集計は、相関関係（※）がみられるかを分析したものであり、因果関係を示したものではないことに留意が必要です。

※ 2つの項目の間の何らかの関係性のことをいいます。